

令和7年度 自己評価・こども園関係者評価報告書

(今後取り組む課題から)

幼保連携型認定こども園

立正保育園

1. 本園の教育保育目標

保育理念

・子どもの個々を大切に、生きる力 あふれる豊かな心と体を育てる ～生き生きとした子どもをめざして～

保育目標 ・明るく・正しく・すこやかに

○健康な身体とどんなこんなにも耐えることの出来る太い幹をもったこども

○様々なあそびと想像。そして、友だちとの輪の広がりをたいせつにできるこども

★私たちは、子ども育ちを支えます。

★私たちは、保護者の子育てを支えます。

★私たちは、子どもと子育てに優しい社会を作ります。

2. 昨年度の課題から 重点的に取り組む項目

・乳幼児期全体を、その特性及び保護者や地域の実態を踏まえて、環境を通して行うものであることを基本とし、家庭や地域での生活を含めた園児の生活全体が豊かなものとなるように努める (幼保連携型認定こども園教育・保育要領より)

3. 評価項目の達成及び取り組み状況 評価 (A…成果があった B…少し成果があった C…今後の課題にする)

| | 評価項目 | 評価 | 取り組み状況 |
|---|--|-------------------------|---|
| 1 | 職員の連携・コミュニケーション・協働 ・全職員で情報共有する・自分の役割を考える ・乳児組、金曜日に振り返り | A…54% B…41% C…5% | 会議を通して話し合い情報共有している。 会議ノートだけでは伝わりにくいことは口頭での説明が必要 |
| 2 | 業務 ・見通しを持って計画し、一人で抱えないように仕事を進める ・業務の効率化・職員の声かけをする | A…59% B…41% | 職員同士の業務内容を確認しながら振り分けできるようにしたが、なかなか効率よくできないことがある。 |
| 3 | 子どもとの関わり ・その子の姿を見る。育ちを理解しあった関わり方で接する ・知識やスキルをつける。 ・行事への対応 (昨年同様ではなく、現在の保育内容に適している) | A…45% B…55% | 一人一人の姿や気持ちに寄り添い関わることに心掛けた。集団行動での一人一人の発達に対応した保育で難しい場面もあった。 |
| 4 | ・主体性を促す関わりや環境構成を工夫する。 子どものありのままの姿を受け入れる ・年齢に応じた環境作り ・子どもの興味にあった玩具を選ぶ。玩具の置き方 | A…50% B…50% | 環境構成を意識して、子供の興味関心を引き出せるようにしたい。自分で考えて行動する場面では、時間かけて見守るなどこどもの意思を尊重できるようにした。 |
| 5 | 保護者支援 ・母親の困り感を知り、寄り添いながら、子育てを一緒にする ・家族構成や家庭環境を把握する | A…50% B…40% C…10% | 挨拶・話し方・表情など意識して、こどもの様子を伝えながら、保護者との信頼関係が築けるよう、不安や悩みに寄り添い一緒に子育てできるように心がけた |
| 6 | 安全環境 ・ヒヤリハットを検証し事故を未然に防ぐ。(ケガが起こりやすい時間帯、場所の把握)・園庭の職員の立ち位置 ・園庭の使い方のルールの共有・アレルギー食のダブルチェック | A…45% B…41% C…14% | 部屋や園庭で職員の立ち位置を確認しながら保育をしても、小さな怪我をさせてしまうヒヤリハット事例を念頭に置き、危ないと思ったら声をかけあう アレルギー対応食のチェック |

